

公益財団法人日本文学振興会

平成23年度事業報告書

1. 平成23年4月6日(水)午後5時より、帝国ホテル4階「桃の間」にて第42回大宅壮一ノンフィクション賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

角幡 唯介 「空白の五マイル——チベット、世界最大のツアンポー峡谷に挑む」

国分 拓 「ヤノマミ」

その贈呈式および披露宴は6月17日(金)午後6時より「帝国ホテル」3階「富士の間」にて開催、受賞者に正賞100万円を贈呈した。

2. 平成23年4月20日(水)午後5時より、「帝国ホテル」4階「桃の間」にて第18回松本清張賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

青山 文平 「白樫の樹の下で」

その贈呈式および披露宴は6月17日(金)午後6時より「帝国ホテル」3階「富士の間」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞500万円を贈呈した。

3. 平成23年7月14日(木)午後5時より、築地「新喜楽」にて第145回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 該当なし

直木賞 池井戸 潤 「下町ロケット」

その贈呈式および披露宴は8月19日(金)午後6時より「東京會館」9階「ローズルーム」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

4. 平成23年10月12日(水)午後6時より、築地「新喜楽」にて第59回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の六件の受賞を決定した。

① 津村 節子

夫・吉村昭の闘病から壮絶な死までを描いた「紅梅」は、深い共感と感銘を与えた

② 新藤 兼人

九十九歳の日本最高齢現役監督として、映画「一枚のハガキ」を完成

③ 石巻日日新聞社と河北新報社

3・11東日本大震災で被災しながら、地元新聞社としての役割と責務を果たす

④ 前新 透「竹富方言辞典」(南山舎)

二十七年の歳月をかけて竹富島の方言を採集した貴重な文化遺産である

⑤ 澤 穂希

日本女子サッカーの歴史を切り拓き、「なでしこ JAPAN」の中心選手として活躍

⑥ 水戸岡鋭治

九州新幹線など、永年にわたり手がけてきた斬新な鉄道デザインの数々

その贈呈式および披露宴は12月2日(金)午後5時より「ホテルオークラ」本館1階「曙の間」および「平安の間」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

5. 平成24年1月17日(火)午後5時より、築地「新喜楽」にて第146回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 円城 塔 「道化師の蝶」

田中 慎弥 「共喰い」

直木賞 葉室 麟 「蝸ノ記」

その贈呈式および披露宴は2月17日(金)午後6時より「東京會館」9階「ローズルーム」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。